

スペイン語教科書出版社へのアンケートと回答一覧

- 本資料に掲載の出版社：3社（匿名）
- アンケート実施期間：2020年2月12日～18日
- 回答：すべて自由回答方式
- 本資料をご覧の方へ：
 - ①本アンケートは、今回の企画（2月25日および3月26日実施）のため、TADESKAから出版社に回答を依頼したものです。質問は、2019年12月から2020年1月までに実施した、学生向けおよび教師向けアンケートの回答内容をもとにTADESKA世話役が作成しました。
 - ②本アンケート作成および公開の目的は、よりよい教科書とは執筆者、出版社、使用する教員そして学生の協力的な関係性から生み出されるという考えに立脚し、出版社の観点を広く共有することです。特に、教科書を執筆される方および使用される教員の方にご活用いただければ幸いです。
 - ③次のようなプロセスでネット公開に至りました。
 - 1) TADESKA世話役が、スペイン語の教科書を出版している日本の会社（世話役の知る限りすべて）に「教科書」についてのTADESKAの企画協力についてお伺いをした。なお、話題が拡散しないために洋書主体の出版社とオンデマンド出版専門の出版社は今回対象に含めなかった。
 - 2) 以上のお伺いに対してご承諾いただいた出版社さんに、自由回答方式のアンケートを実施した。
 - 3) 各社にビジネス上の配慮が必要なため、出版社が特定されない方法で回答内容をTADESKA世話役が編集し、資料として完成させた。
 - 4) 2020年2月25日「第11回関西スペイン語教師の集い」および2021年5月9日「第143回TADESKA例会」出席者に上記資料を提示、回収（2020年度はコロナ禍によりTADESKAでは緊急に年間のテーマを変更した。そのため約1年のブランクが生じた）。
 - 5) その後、ご協力いただいた各出版社に対し、資料のネット公開の可否を伺った。その結果、ネット公開を許可していただいた出版社の回答内容のみをこの資料に掲載した。
 - ④質問は全部で26個で、本資料は計10ページです。
 - ④アンケート結果の見方は次の通りです。記号Qは質問、Aは回答を表します。

質問番号

【Q2】出版社から見て、学生向けアンケートから見られる学生からの要望事項のうち、比較的簡単に実現できることからはあるか？あるとすれば何か？

★A1★ 大きい教科書を嫌がる学生が多いことを知った。大きい教科書（A4判）を希望されるのは著者の教員だが、その際「学生さんは大きな教科書を好まないようです」とお伝えすることができる。

★A2★ 日本語訳、等を刷り込むことは技術的には簡単にできるが、そうなった場合、教員がその教科書を使いたいと思うのか。

★A3★ 間違い（誤植など）を

上の質問に対する、各社からの回答。出版社の回答の順番は質問毎にシャッフルされており、「A1」「A2」「A3」がそれぞれ特定の出版社を指すものではない。

【Q1】 出版社から見て、教科書出版は参考書の出版と比較して何がどのように異なるか？（書籍の内容、制作・販売のプロセスなど、なんでも）

★A1★

- ・刊行時期のちがい

教科書は新学期である4月から使い始めるのに合わせ、前年の10月くらいには校了～印刷していることが必須。

一般書は新年度である4月や9月に合わせて発売、または試験対策の時期などによって刊行時期はさまざま。

- ・解答や日本語訳の有無

一般書の学習参考書は本だけで完結するために（主に自学が目的）解答が刷り込みや別冊として投込みされているが、教科書は教員の授業を受けて、そこで完成するものという認識なので、解答が刷り込みになっていない。しかし実際にはあくまで授業をアシストするという意味から、解答を含む「教授用資料（非売品）」を用意している。万が一、解答が出回ってしまった場合、授業に支障が出る可能性があるため、教授用資料は実際スペイン語を教えている教員の手以外には絶対に渡らないよう、細心の注意をはらっている。

・また学習参考書との混同を避けるため、教科書は一般の書店の棚には並べていない（実際、解答がなければ、買ってもらえないので、並べてもらえない）。大学や教育機関の採用以外で注文があった場合は、授業で使うものなのかを確認し、解答がない旨を必ずご了承いただいてから出荷している。HPの注文も同じく注意喚起をしている。なおAmazonでは注意喚起ができないため、教科書はAmazonでは販売せず、自社HPにて販売している。

★A2★ 教科書は教員が教えて（説明補足をして）学習を進めるもので、参考書は一人で学習できる内容のもの。

★A3★ 「授業での使用が前提」という視点ですべてが作られているのが教科書で、「学習者が自分1人で学べるように」との目的で作るのが参考書。編集方針の立脚点からまったく別物として考えている。内容、製作販売のプロセスも、上記のそれぞれの立脚点に準じて異なってくる。

【Q2】 出版社から見て、学生向けアンケートから見られる学生からの要望事項のうち、比較的簡単に実現できることはあるか？あるとすれば何か？

★A1★ 大きい教科書を嫌がる学生が多いことを知った。大きい教科書（A4判）を希望されるのは著者の教員だが、その際「学生さんは大きな教科書を好まないようです」とお伝えすることができる。

★A2★ 日本語訳や解答を刷り込むことは技術的には簡単にできるが、そうなった場合、教員がその教科書を使いたいと思うのか知りたい。

★A3★ 間違い（誤植など）をなくす。わかりやすい説明を心掛ける。

【Q3】 出版社から見て、学生アンケートから見られる学生からの要望事項のうち、実現困難なことはあるか？あるとすれば何か？

★A1★ 解答をつけること。これを嫌がる教員のほうが多いため。

★A2★ 価格を1,500円にする、などのテキストの安価化。実際は、価格は常に多角的な面から正しいと思われる数字を算出し、常にできるだけ安価になるよう設定努力を惜しまない。

例えば判型（本の大きさ）、ページ数、多色刷、イラストの数、印税など・・・一番避けたい事だが、何かに妥協をしなければ、単純に「安価にする」という事は難しい。

★A3★ 練習問題解答の添付。価格を大幅に下げる、など。

【Q4】 その他、学生向けアンケートの結果について何かコメントがあれば。

★A1★ （学生が）感想を詳しく書いてくれて、ありがたい。小社のことではないかもしれないが、励みにする。日本語訳をつけ解答をつけ、そして「安価」で、という希望が多いように見受けられるが、教員の教えるにあたっての希望内容とは真逆である、という印象を受ける。「安価」については、どれだけ売れるか、との兼ね合いで決まる。

★A2★ 先ほどの判型は一例で、学生の希望があっても著者の教員が違うことを言えば、出版社の耳に入っていない。教科書を決めるのが教員である以上、学生より教員の声を聞きながらの教科書作成が現実的となる。

★A3★ 単語の意味や和訳が足りない部分は、辞書を使って調べるよう、教員が指導してほしい。

【Q5】 新規の教科書出版は、1) 既存のスタイルを維持しつつクオリティを上げたり、時代に合わせた変更を行う、2) 分野やレベルにおいて既刊書が少ないところに新たに作る、3) 既存のものとは異なる新しいスタイルの教科書を作る、といった方向性があると思われる。出版社としてはどのような方向性の教科書出版を積極的に行いたいと考えているか？

★A1★ 1)は改訂版を作るとき。全くの新刊は、2)や3)の方向性で、特にどれかを積極的に行いたいというのはない。

★A2★ 1)はもちろんだが、2)も3)も企画次第。「面白い」「今までにない」「受ける」企画である事は大切だが、それだけでなく、例えば「実際にその教科書を使用できるカリキュラムがどれくらいあるか」等といった、漠然とした事のように見えて、実際に数値に置き換えられる予想がある程度できるかどうかといった点も企画実現には見逃す事をしない。そういった企画があれば、または、そうと思える企画があれば、寄り添いたいし、むしろこちらから、どんどん積極的に企画をぶつけ、挑戦したい。また持ち込み企画の場合は、ざっくりしたイメージではなく、具体的な原稿や企画書など詳細があると進めやすい。

★A3★ どの方向性も大事であるし、どれかに偏りすぎると教員の需要をまんべんなくカバーすることが難しくなるため、できる限りこれらをバランスよく行っていきたいと考えている。

【Q6】（特に初級スペイン語で）他書に似た内容の教科書がたくさん出版されている。出版社はそれがどうという理由によると考えるか？

★A1★ 出版社ごとに傾向があり、「他書に似た内容」ばかりではないと考えているが、刊行点数が多い出版社のものが多く教員の目に留まるために、そのような印象が持たれている可能性はあるのかなと思う。

★A2★ 多少の特色は出せるが、不特定の多くの大学で使ってもらうために、一般的な（既存の教科書と同じような）内容になってしまう事が多いのではないかと思う。

★A3★ 似ていても同じではない。明らかに似て非なるもの。それぞれの著者や採用者の痒い所に手が届くように、日々変化に対応しようとする姿勢を忘れずにいたいという結果であって、「同じ教科書はどれひとつとしてない」という自負がある。

【Q7】 出版社の方で、制作中の教科書が他書に似ているかどうかのチェックはしているか？

★A1★ 依頼ないし進行の時点で、信頼する著者に企画を依頼・進行しているので、特にしない。

また文法説明のための例文が似るのは避けられない場合もあり（その文法説明のための最高の例文は、結果同じものになることはあると思う）、ある程度はやむを得ない、ということもある。

★A2★ 他書との類似については企画段階で検討するため、製作中にチェックすることはあまりない。

★A3★ はい。できる範囲内で。

【Q8】 教育出版社の仕事は実のところどういうものか？①新刊書の企画が立ち上がり、いくつかの工程を経て出来上がって大学書店に搬入されるプロセス、②出版社と協力会社等（外注のこと）の役割分担、これらについてこの機会に知りたい。

★A1★

①教員より企画発案→出版社で編集製作→出版社による販促活動→教員からのご採用連絡→大学書店から発注→該当年度の採用部数見込みを立てて製作部数決定→印刷製本を発注→完成品は取次会社を経て書店に搬入

②上記の「出版社で編集製作」の工程で、デザインやナレーション、イラストやページレイアウト作業などを外部に発注する。特に語学教材の編集作業は多岐にわたるため、多くのスタッフが必要となるが、主に現場の制作作業を行うのが外部スタッフである。それらをディレクションして完成品までの製作を行うのが出版社であり、また完成品を営業販売するのも出版社の役割である。

★A2★ ①出版社→取次（問屋）→書店 ②小社は社内で行う。

★A3★ 版元により異なるが、小社の場合は

・本ができるまで

企画立ち上がり→著者による原稿執筆→ほぼ同時進行で本文見本レイアウトデザインを外注（著者と相談しつつ大まかに決定）→全体の原稿をレイアウトに入れ込む（外注）→校正3回（修正は外注）→タイトル決定（著者と相談しつつ）→表紙（外注だが、著者と相談しつつ決定）→本文と表紙印刷、製本（すべて外注）→小社倉庫へ納品

・注文してから本が届くまで

教員から書店へ注文依頼（この辺りは学校によっても異なるのだろうか。詳細は把握していない）→書店から小社へ注文（または取次を経由して小社へ注文）→小社倉庫より取り寄せ、取次（トーハンや日版などの書籍の卸売業のこと）に搬入→取次が書店へ納品

【Q9】「編集者」とは誰のことだろうか？「編集」にはどういう仕事が含まれており、その編集作業にはどういう人が関わっているのか？執筆者（著者）は「編集」にはどこまで関われるのか？

★A1★ 前述した「外部スタッフディレクションして完成品までの製作を行う」のが編集者。企画立案、校正作業、デザイン・レイアウト・イラスト発注、写真の手配、ナレーション録音手配、紙や加工の手配（製作部と共同で）、予算配分や見積検討、教授用資料作成、献本手配などが含まれる。デザイナー、イラストレーター、オペレーター、校正者、印刷所などが関わっている。著者は原稿執筆、校正、レイアウト・デザイン・イラストへのご意見、写真手配のご相談などに関わっていただくことが多い。編集の専門知識と経験がなければ、（著者が）実際の編集に関わることは現実問題として難しいと思う。

★A2★ 「編集者」とは編集する人のこと。「編集」とは、企画から校了まで行うこと。編集作業は、編集部の人が携わる。著者が関わりたいことを編集者に相談して決めていく。

★A3★ 本により、著者により、著者のコミット度により、異なる。その線引きは難しい。

【Q10】教科書の制作時、デザインが出版社側から一方的に決められてしまうことがある。なぜそうなるのか、出版社のお考えを聞かせてほしい。

★A1★ 一方的に決めることはどの出版社でもないと思うが、そのように著者の教員に感じさせてしまう経緯があるのかもしれない。

★A2★ 小社では、一方的に決めることは決してない。ただし、売れるためのセンスや経験則などわれわれやデザイナーに任せていただきたい部分もある。タイトルも然り。

★A3★ デザインは出版社の仕事だから。

【Q11】専攻向けや中級の教科書は、第二外国語向けの教科書と比べて需要が少なくあまり売れないように思う。実際その通りか？また、そのような理由から、専攻向けや中級の教科書の出版はあまり活発ではないと考えて間違いないか？

★A1★ 「需要が少ない＝パイが小さい」とは言えるが、「あまり売れない／出版が活発ではない」とこととイコールではないと考えているため、中級教科書の出版も積極的に行っているつもりである。

★A2★ はい、その通り。

★A3★ 全くその通り。

【Q12】 現在、文法中心の教科書と、いわゆるコミュニケーション重視と言われるような教科書と、全体としてどちらがよく売れているか？

★A1★ それぞれのタイトルによって売上が異なるため、文法／コミュニケーションというくくりで「どちらがよく売れている」とは判別しにくい状況。それぞれに需要があると感じている（圧倒的にこちらという印象がない）。

★A2★ 文法とコミュニケーションの両方を扱っている教科書が良く売れている。

★A3★ やや文法のほうが売れているように見えるが。ただし、小社では実際の需要に対してまだ適切な教科書の供給がなされていない可能性も考えられる。

【Q13】 同じ書名の本の改訂は、誤字脱字を修正するだけにとどめるべきか？それ以外の修正も可能な場合、どの程度の修正までが改訂の範囲内になるか？

★A1★ 改訂の度合いによるので、一概には言えない。大幅改訂の場合もあるし、小改訂の場合もある。著者から「改訂版」を作成したい、と言われた場合は、そのテキストのそれまでの売れ方次第で、どちらの可能性もあり得る。すでに多くの先生方がご承知のことだとは思いますが、この機会に「改訂」と「増刷(ぞうさつ)」の違いを改めてお伝えしたい。似ているようだが、版元では全く違うこととして捉えている。改訂：タイトルを変え、ISBN を変え、価格も変わる。全く違う本という定義。改訂の程度は方針によるが、練習問題や例文を変えることもある。

増刷：在庫がなくなった場合に、刷り増しをすること。タイトルや ISBN や価格はもちろん同じ。同じ本という定義。

修正は必要最小限の誤植のみ。なぜなら、購入時期がずれたり、生協以外で本を購入したり、他の学生と違うルートで本を購入した場合は、同じ教室内で修正前と修正後が混在する、つまり極端な場合は隣の学生と教科書の内容が異なるなどの混乱を起こしえる。そのため修正はぜひとも最小限にとどめたい。

★A2★ 誤字脱字を修正するだけにとどめるべきだとお伝えしている。同一クラス内で違う版が混在することを避けるため（編集上の問題ではなく、出荷の問題となる）。どうしてもと言う教員には、「同一クラスで版が混在してもお授業運営に支障をきたさない範囲で」とお願いしている。

★A3★ 正書法の改訂や、情報の変更に伴う修正など。また、収録音声に影響が出ない範囲の修正。大幅な修正は、版が混在すると授業の際に困るので、できるだけ影響のない範囲で。

【Q14】 デジタル教科書の明確なビジネスモデルは、今後できていくのか？

★A1★ 今後はできるだろうし、ぜひとも協力して作っていきたい。しかし、現場で求められているのかどうか、未だに懐疑的ではある。

★A2★ 流通販売の問題が解決すれば、比較的すぐにできると思う。

★A3★ わからない。

【Q15】 スペイン語の教科書は一般書と比べて薄いのに値段が高いようだが、それはなぜか？

- ★A1★ 一般書が何を指すか不明だが、製作費のわりに販売部数が少ないから。
- ★A2★ 教科書以外にも音声教材・教授用資料など付属教材がある、採用検討のために無償で提供する見本献本が多い、それらの発送等の実費もかかるなど、一般書に比べて製作から販売までのコストが必要なため。
- ★A3★ 分からない。なぜそんなに安くできるのか、こちらが知りたい(勉強したい。是非教えてほしい)。

【Q16】 教科書の宣伝はどのようにされているか？

- ★A1★ カタログ、チラシ、ホームページ、メールマガジン、学会展示、大学へのご案内、教科書展示会の開催など。
- ★A2★ カタログや献本送付、学会（他言語も含め）の際の学校回りなど。
- ★A3★ 見本（≠完成本）を作成・送付、カタログ送付、大学の研究室を廻り教員一人一人に話を聞いていただく、学会大会での展示など。

【Q17】 教科書を量産した後大量に在庫が発生し、結果的に廃棄される場合もあると思う。その場合、環境への配慮などはどうなっているか？

- ★A1★ 紙資源として再利用されている。
- ★A2★ 最小限適切な部数を刷り、廃棄も最小限に絞るなど、環境には十分に配慮している。
- ★A3★ 採用内報から類推して毎年の印刷製本部数を決めるため、量産は現在行っていない。

【Q18】 教材アプリの制作について具体的な計画はあるか？

- ★A1★ 以前作成したことがある。
- ★A2★ 特になし。
- ★A3★ ない。製作コスト回収の見込みがないため。

【Q19】 その他、教員向けアンケートの結果から何かコメントがあれば。

- ★A1★ 忌憚のないご意見、感謝している。耳が痛い文言も励みになる文言もあるが、現実として受け止め、なるべく教員の期待に添える教材を刊行していきたい。
- ★A2★ 教科書を決めるのは、学生ではなく教員である。良い教科書を選んでほしい。
- ★A3★ 当然ながら1社ごとというよりは出版社全体でご覧になっての意見のため、出版社を外観するとこのように見えているのかと知るきっかけになった。

【Q20】 出版社の企業理念のうち、教育出版に関することがあれば。

★A1★

- ・教えやすく学びやすい教科書づくり
- ・決まったルールにとらわれない教科書づくり

★A2★ 小社公式サイトより「当社は創業以来、学習する方々に『最高の教材を提供すること』を理念とし、外国語の辞書、語学学習書、大学向け語学教科書等を中心に、数多くの書籍を出版してまいりました。」

★A3★ 内容のしっかりしたもの、誤りのない正確なもの、体裁のすっきりしたものを、を作る。

【Q21】 出版社担当者個人の教育出版に対する思いについて。

★A1★ 外国語学習を通じて、日本以外の国や地域に興味・関心を持ってもらえたら。

★A2★ 教育出版は、教育現場と出版社の相互協力が必須の出版形態である。しかし近年、現場の教員のご多忙が増す一方で、かつてのように出版社と二人三脚でという余裕がなくなっているように感じ、個人的には寂しく思っている。

★A3★ とかく偏りがちな教科書について新しいものを教員も求めているということを知った。わたし個人も全く同じ考えで、新しいものを作りたい、という気持ちは常にある。

大学生がどんどん変わっているのに、教科書が変わらないというのは大きな問題だと感じている。いま現在の学生（またはこれから大学生になる高校生）などに即した教材を作りたい。ただし、わたしどもは学生に直接接することはないので、現実を把握できないのが問題。そこは著者となっている教員・ご採用をご検討されている教員が頼り。学生のニーズをくみ取り、スペイン語の教授法にも詳しいバランス取れた著者を常に探している。

【Q22】 出版社から見て、スペイン語の教科書と他の外国語の教科書の内容、出版活動や販売促進等に関して、何か違いを感じることはあるか？あるとすればどういう点か？

★A1★

・最近、スペイン語は他の言語に比べて、教員一人当たりが担当している学生が多いという印象である。教員は多忙を極めるので、そこを助ける教材が必要とされているように感じる。

★A2★ 他言語と比較して、内容や分量を詰め込みたがる傾向にあるように感じる。また他言語と比較して出版社が少ないので、出版活動や販売促進等に関してもやや寡占状態に近くなる傾向があるかもしれない。

★A3★ ない。同じ。

【Q23】 出版社からスペイン語教員に対して、教科書について何か質問があれば。

★A1★ アンケートにご回答くださった教員は、教育活動に熱心な教員であるために、出版経験を持つ人が非常に多く見受けられた。教科書執筆へのきっかけを聞きたい。

★A2★ 教科書の音声について、どんな方法がよいだろうか？→CD 添付、ストリーミング、ダウンロードなど

★A3★ 結局のところ、デジタル版・電子版の授業での運営は成立するのか？

★A4★ どんな授業で、どんな教材が不足していると感じるか？（スペイン語以外の教科でも結構）

（注釈：複数の質問をした出版社があるため、質問毎に A に番号を付した。このため A4 までとなっている）

【Q24】 以上の質問項目にないことで、この機会に教員（執筆者）に伝えたいことがあれば。

★A1★ 作成にあたり、どうしてもこちらが慣れてしまっていて「こちらの常識を教員も了解済み」ということで進めてしまう場合がある。執筆過程で不明なことがあれば、何でも事前に質問してほしい。

★A2★ 1つの出版社で複数の執筆をする人と、複数の出版社で執筆をする人がいるが、それぞれのご感想を聞きたい。

（注釈：回答のあった出版社が2社だったため、A1, A2の2つを掲載している）

【Q25】 以上の質問項目にないことで、この機会に教員（教科書の採用者もしくは使用者）に伝えたいことがあれば。

★A1★ 教科書を決めるのは、教員である。

★A2★ 「採用者もしくは使用者」とあるが、これらは大きく違う印象である。「執筆者＝採用者」「使用者」「非使用者」という3分類のイメージがある。

★A3★ 毎年秋に教員に新刊など教科書見本を実際に見て、手に取って選んでいただくために送っている（実際、それを希望されていることが多い）。万が一、不要の場合は、着払いでご返送いただくか、「受取拒否」として受け取らないでも差し支えない。あるいは大変お手数をかけることになるが、担当者まで見本は不要である旨を連絡してほしい。

（転売は言うまでもないが）また、できれば、但し書き抜きで学生に配る事も何卒ご遠慮してほしい。学生から答えが欲しいという問い合わせを受ける事があるが「質問1」の答えにも書いたように、その要望には残念ながら応えられない。どういうわけか教員に見本として送った本が某サイトで販売されていたりする事もあり、そのサイトで買った一般の方からも問い合わせが来たりして困ることがある。

【Q26】 この機会にスペイン語の教科書を使用する学生たちに伝えたいことがあれば。

★A1★ 新しい言語の修得には、努力が必要。修得とは、「読む」「書く」「聞く」「話す」の4技能を身につけること。

★A2★ 学生の声は、教員を経由しないと出版社には伝わらないので、ぜひ教員にリクエストを伝えてほしい。

★A3★ スペイン語を選択して、教科書をご購入いただき、心から感謝している。スペイン語を勉強したことが（たとえスペイン語を使わなくても）人生の糧になり、みなさんが社会で活躍されることを願ってやまない。

そんなことは絶対にしないと思うが、念のために伝えたいことがある。

・正規ルート以外で教科書を買わないでほしい。某サイト「メル〇リ」等での教科書の転売はしないようお願いする。今使っている教科書でも次の年には、増刷により内容を修正している場合があるので、同じ教科書のように見えても使えないことがほとんどである。買う方の迷惑になり、クレーム問題に発展しかねない。また、「刷りが違うから取り替えてほしい」という問い合わせも時々聞く。（むろん当方では責任は負えない）

・もちろん大学生であれば知っているし、守っていると思うが、教科書の一部あるいは全部を無断で複製（撮影・デジタル化を含む）及び転載することは、法律上で認められた場合を除き、禁じられている。最低限のルールなので、守ってほしい。

(以上)